

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月7日

【評価実施概要】

事業所番号	1271700435
法人名	株式会社メデカジャパン
事業所名	さくらケアセンターそよ風
所在地	〒285-0812 千葉県佐倉市六崎1525-1 (電話) 043-483-8121

評価機関名	特定非営利活動法人 コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港 4-4 千葉県労働者福祉センター 5F		
訪問調査日	平成20年11月5日	評価確定日	1月9日

【情報提供票より】(平成20年11月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 7月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人	
職員数	18 人	常勤	14 人	非常勤 4 人 常勤換算 6 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2 階建ての	2 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	運営管理20,000 + 水・光熱費 15,000 + 理美容2,500 + オムツ	
敷金	有(320,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有(期間4年)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要(11月7日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.05 歳	最低	82 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	栗山中央病院・佐倉デンタルクリニック・はるかぜ診療所
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑が多く、四季を肌で感じることのできる住宅街の一角に位置している施設である。訪問当日は、風の中を落ち葉が舞っており、まさにグループホーム「そよ風」のイメージを肌で体感した。1階がデイサービス、2階がグループホームとなっており、温かくにぎやかな人の気配が感じられる。同ホームは平成13年オープンなので今年7年目。サービス面ではかなり熟達してきている。現在の課題は地域交流。近隣の保育園児や高校生との関わりはあるが、それ以上に様々な地域の人々と交流を深めていきたいと考えている。運営推進会議の定期開催、非常災害時の地域との協力的体制作りなど、地域との結びつきをより一層強めていくため、日々取組みを行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	各ユニットに理念を掲示し、職員のみでなく訪問者にも目にしてもらいたいという思いを込めた工夫が図られている。介護計画の見直しに関しては、月1回モニタリングの実施を導入している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、職員の関わりによって作成されている。また、全職員に閲覧できるように各部署に掲示されており、外部評価に対する意義・理解が示されていることを垣間見た。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	今年度の運営推進会議は、2回(施設行事終了後)開催されている。今後は、入居者家族の出席率増加に向けて工夫を図っていく。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	月1回請求書を含め、入居者の状況報告書・そよ風便りを家族へ送付している。また必要に応じて、書面のみでなく電話等による直接の声で状況説明を実施している。介護相談員による、入居者・家族への対応も実施している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	そよ風便りを自治会で回覧してもらい、当ホームの行事等にも理解を得ている。また、納涼祭など、大きな行事には、近隣の家族連れの参加も目立ち定着しつつある。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	桜ユニットでは「五感介護」、若葉ユニットでは「同じ目線で」を今年度のモットーとして掲げてある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	個々の意識を高め、マンネリ化を防ぐ意味で、年度末に全職員で話し合いの場を持っている。そして、次年度の目標を打ち出している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「そよ風便り」を自治会に配布し、納涼祭等の参加を呼びかけている。今年度の納涼祭(7周年祭)には、家族連れの姿も見受けられ、自然体での訪問が定着しつつあるように感じている。近隣の保育園・高校との交流は継続している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各ユニットに自己評価票を掲示し、常に職員の目に触れるような工夫がなされている。そして、「見直すことが大切」という事を折に触れて、職員間の話題としている。	○	評価結果に対する改善計画を具体的に作成して実行すると、さらに評価が活かせると思われる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、ひな祭り・納涼祭(7周年祭)の後に、会議を実施している。しかし、参加者が少ないことが課題として挙げられている。		参加率アップに繋げるための工夫を模索していくことが促される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	敬老会等公的な行事を通しての接点が多い。同法人のデイサービス担当者が週3回くらい役場を訪問して情報交換を行ない、同ホームにも情報提供を行っている。	○	市町村との連携方法に対して、ホームとしての更なる工夫が期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、請求書に加えて入居者状況報告書・小遣帳コピー・そよ風便りを家族宅へ送付している。また、必要に応じて電話での報告もなされている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口として管理者を設定している。投書箱を設置し、行事後にはアンケートの配布により意見や思いを述べてもらっている。これらを参考に、改善を図っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の入替わりがあった時は、食堂の席替えを行うなど、環境を変えて気分転換を図っている。必要があれば入居者への説明も行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人の他ホームとの研修への参加等、職員個人に合った内容のものを選び、積極的に実施している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人他ホームとの合同勉強会・懇親会等で交流を図り、情報交換を行っている。地域においては、管理者同士の個人的付き合いによる情報交換が行われている。同業者による突然の訪問・見学も受け入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>体験入居のシステムはあるが、あまり活用されていない。入居時は、出来るだけ馴染みのある生活用品を持ち込んでもらうようになっている。デイサービスを利用していた入居者がホームに入居した場合は、しばらくデイサービスの利用も継続してもらい、環境変化の影響を少なくするよう配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は入居者と共に「美味しい・楽しい」等を感じながら生活を送っている。また、一方的に関るだけでなく、洗濯物のたたみ方や調理の方法を教わったりしている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の居室毎に職員を担当制にすることで、きめ細かな対応に努めている。また月一度のミーティングを通じて情報の共有化を図っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者本人、家族の要望を聞き入れた上で介護計画を作成している。ケアの質の向上を目指して、チームケアに活用しやすい介護計画書の書式を検討している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の期間に応じて見直しが行われている。また、随時の変化については、本人、家族の意向を確認した上で、計画の見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問診療に24時間対応する体制がある。また特別な外出の支援として、お楽しみの外食会を月1度程度実施している。地域に開かれた事業所として、地域の認知症高齢者の動向の把握に努めている。		
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診時の長い待ち時間が入居者の負担になっている事から、家族とも十分な話し合いの上、2ヶ月に1度全員が訪問診療を受けている。訪問歯科の利用や、希望のかかりつけ医の受診も可能である。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期を看取することは法人の方針に挙げられているが、実状は重度化の場合は退居してもらっている。		ホームとしてのターミナルケア方針を明確化し、入居者の終末期、どこまでケアが行えるのか、家族に周知することが必要と思われる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉遣い、態度は丁寧であり、入居者の尊厳に配慮されている。また、個人記録等の取り扱いも慎重に行われている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースが大切にされ、ゆったりと過ごしている様子が伺える。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員と一緒に食卓を囲み、食事を楽しむ光景が見られた。また、調理や後片付けにも入居者の力が発揮されている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	やむを得ず入浴時間を設定しているが、毎日数名ずつ、出来るだけ一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるよう支援している。要望のある夜間入浴の実施も検討している。		
いえ					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	おやつ、外食や園芸への取り組み、季節毎の行事への参加や毎日の食事の手伝い等、入居者一人ひとりが張りのある日常生活が送れるよう支援している。またレクリエーション係を設けて楽しみ事の機会を増やそうとしている。時には寿司や焼肉など外注の弁当を楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物は日常的に行われている。また戸外で過ごす機会として、天気の良い日には外の駐車スペースにテーブルを出して昼食をとる場合もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームが建物2階部分にある為、入居者の安全への配慮から、エレベーターや階段入り口に鍵を掛けている。入居者の生活スペースについては、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回実施し災害に備えている。訓練の際、地域の参加も呼びかけているが、参加までには至っていない。		防災面からも地域との協力体制を築く事が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
矢					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量をその都度記録し、一人ひとりの状態に合わせて対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット毎に食堂の見やすい位置に大きな時計が掛けられ、テーブルや椅子もバランス良く配置されている。採光や壁の色具合等、ホーム全体がすっきりと落ち着いた雰囲気に包まれている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者一人ひとりの居室はそれぞれ个性的に整えられており、家族と共に良く吟味して用意されたことが伺える。		